

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000190
法人名	(有)ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットぐんちゅう
所在地	伊予市米湊字西窪1131-3
自己評価作成日	平成24年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①職員は毎日笑顔で利用者様に接しており、コミュニケーションを大切にしながら、接遇に気をつけ生き生きと働いている。 ②かかりつけ医 近藤医院への報告・相談を密にし、訪問診療を充実させて利用者様の医療面のレベルアップに努めている。 ③近隣の方々・伊予農業高校生の訪問・交流が多く、写真の展示・傾聴ボランティア・園芸セラピーなどに入っていたり、利用者様との交流を深め、心を豊かにしていただいている。 ④数年前より家族会を発足させ、年に数回家族会を開催し、利用者様とのふれ合い、家族間・職員との交流にも力を入れている。 ⑤今年度より、ホームヘルパー2級の実習受け入れ予定であり、更なる質の向上を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から12年目を迎える事業所であり、「この仕事が好きなんです」と管理者も職員も異口同音に笑顔で言う。利用者が楽しく暮らしている事業所である。また、職員の入れ替わりは大変少ない。管理者は利用者の生活の質を高めるためには、家族等の協力が不可欠であると考え、利用者や家族の絆を保つよう支援に心を砕いている。利用者の生活を輝きのあるものにするという福祉職としてのプライドが感じられる。職員は現状を良しとせず絶えず前向きに検討し、より良いケアが提供できるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム ユニットぐんちゅう

(ユニット名) A 棟

記入者(管理者)

氏名 武智 美知子

評価完了日 平成 24 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を第一の理念にあげ、コミュニケーションをとりながら、ゆったりと生活していただけるよう努めている。毎朝職員全員で、理念と月目標を唱和している。「より豊かな その人らしい生活が送れるようにチームで支援します」と去年スタッフ全員で考え、話し合い、新しいサブ理念も掲げて目標にしている。時々、介護方法を見直している。</p> <p>(外部評価) 昨年事業所の運営が10年目を迎えたことを契機に理念の見直しを行っている。初心に帰り利用者のケアに力を注ぐようにしている。また認知症のケアでは、利用者それぞれの生活を大切にすることが基本であることから、理念に「その人らしさ」を取り入れて、日々のケア現場で実践できるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日頃、地区の回覧版もまわってきている。近所への散歩・又地域の行事に参加し、顔見知りとなることで、地域の一員として交流できるように努めている。今年も地域の「いきいきサロン」「敬老会」伊予市の住吉祭りの踊りにもスタッフほぼ全員にて参加した。近くの集会所で開かれる研修会や、手作り作品展にも、毎回参加しながら、地区の方々との交流を深めている。近所の方の来訪あり。</p> <p>(外部評価) 近隣者や地域のボランティアの出入りが多く、日常的に地域との交流がある。地元の高校生が園芸セラピーで訪れ、利用者笑顔でお茶しながら楽しく話す姿から、気軽に近所付き合いができているのが分かる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域のボランティア・行事参加の誘いあれば、スタッフ参加し、認知症に関する質問等に答えている。又地域運営推進会議でも、地域の様子を聞き、認知症についての質問等に答え、できる範囲の事を行っている。利用者家族や面会に来られた地域の方々の認知症に関する質問にも、職員の理解している範囲で答えるとともに、認知症の方に対する理解を呼びかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、写真を見ていただきながら2ヶ月間の行事報告を行った後、議題に関して話し合いを行い、参加している市役所職員・区長・民生委員他より意見をいただき、サービスに生かすようにしている。特に避難訓練時には、地区の方々の意見を参考にしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は進め方に工夫を凝らし、会議に合わせて行事やその準備会を行い、委員からは闊達な意見が出ており、利用者へのサービス向上の意欲が感じられる。また、地域の方を対象にした福祉に関するテーマで勉強会等も開催するなど地域貢献の役割も担い、双方向の関係性が構築できている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎月グループホームの入居状況・予約者状況をメールいる。市役所長寿介護課からも文書・メールにて色々な情報を頂いている。不明な点があれば、市役所他に問い合わせ確認をしている。訪問調査時には、正しい情報を詳しく調査員に伝えている。介護相談員の来訪も毎月あり、利用者様は相談する事ができる。</p> <p>(外部評価) 地域の福祉を牽引している事業所で、ケアサービスや避難訓練など他の事業所の相談役を担っている。これらの相談は行政経由で受けており、市と連携し地域の福祉を推進している。行政との信頼関係や協力体制が構築されている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 定期的に見直しを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は可能な限り施錠をせず、開放的な雰囲気になっている。やむおえず身体拘束をする場合は、家族に同意書をいただいております、できるだけ夜間のみ短時間の拘束としている。自由で家庭的な雰囲気大切にしている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束には物理的なことだけでなく精神的な拘束もあることを、管理者は事ある毎に職員に話している。職員は声かけにもやさしさだけでなく、利用者の行動を妨げないようとの配慮がある。利用者がゆったりとした自由な暮らしができるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞、ニュース等で虐待の事件があれば、その都度、原因や防止策について話し合いをしている。研修会や講義に参加した者は、記録を作成し、他の職員にも知識を広げている。入浴や身体介助時には、利用者様の身体観察に努め、気になる点があれば報告し改善に向けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し知識を広めている。参加者は記録を作成し、他の職員にも知識を広め、共有している。独居の利用者様一名に対して、弁護士を立て、本人の希望に添えるよう相談にのっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書に沿ってわかりやすく説明し、必ず疑問点がないか尋ねている。利用者様と家族に納得、同意の上、書面にて契約手続きをしている。また、利用中の料金改正、契約内容の変更があれば、その都度、その理由を説明し理解・同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的で開催される地域運営推進会議、家族会には、なるべく違ったメンバーになるよう配慮し、より多くの意見を頂いている。事業者が開催する行事には、家族や近隣者にも参加して頂き、意見や要望を聞いている。玄関には意見箱の設置あり。出された意見は前向きに運営にとり入れている。 (外部評価) 管理者が事業所の運営に関して心を砕いている事の一つに「利用者と家族の関係を密にする」ことがある。また関係修復という視点もある。家族からの率直な意見や要望を聞き取るため、心を込めることを大切にしながら傾聴を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全職員に対して個別に面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見は、代表者会議にて伝え、改善すべき事は良い方向に改善している。毎日朝夕に行われる申し送り時は、職員全員が自由に意見を発言できる場となっている。 (外部評価) 管理者は介護シフトに入っており、介護現場で直接職員と話し合う時間を大切にしている。また、人を育てるという視点から、若い職員の意見に積極的に耳を傾けている。職員からは「利用者のために考えた意見は反映されている」という声を聞くことができ、職員と一緒に事業所を運営していることが理解できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務年数、能力に応じ昇給あり。年二回の賞与、退職金制度あり。代表者は、資格所得を勧め、所得者には手当ての支給がある。代表者は管理者を通し、職員個々の勤務態度、能力、努力を把握し、昇格、昇給につなげている。資格の有無にかかわらず、昇格できる体制をとっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会の案内があり、参加を積極的に勧めている。参加者の研修報告書には、必ずコメントを入れ、職員の能力、知識を把握し、意欲の向上につなげている。協力医療機関と連携をとり、社内研修が多く行われた。研修会には、日勤扱いで参加することが多い。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) GH協議会、CM協議会に加入し、研修会や行事には毎回参加し、同業者との交流を図っている。他GHとの相互研修に2名参加し、自施設のサービスの質の向上の為、参考になった。社内3事業所間では、地域運営推進会議他相互訪問する機会が多く、意見交換、情報収集に力を入れている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前アセスメントで、本人、家族の思いや希望を親身になり聞き取るよう努めている。環境の変化で戸惑ったり不安にならないよう、なるべく今までと同じ生活ができるよう環境や生活リズムを整えるよう支援している。家族とも信頼関係を深め、協力を頂き、共に本人を支えていく姿勢をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時、利用者様、家族が困っていること、求めていること、不安な事など、悩みをゆっくり聞き、不安なく利用していただけるよう、時間をかけ、コミュニケーションをとりながら受けとめるようにしている。又電話での相談にもいつでも応じ、信頼関係を築くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の希望に耳を傾け、さまざまな選択肢を考えた上で、分かりやすく説明し、利用者様・家族にとって一番良い方法を見極めている。一定期間後に必ず見直しを行い、確認をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔の話、しきたり等の話を聞いたり、人生の先輩として意見を参考にしたり、一緒に喜び、悲しみも分かち合える関係づくりに努めている。一対一の時間・かかわりを大切にしながら、本人を深く理解しようと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 近況報告など、情報を共有し、良いことは必ず伝え、安心していただけるようにしている。又、行事の時には案内し、本人と一緒に過ごす時間を楽しんでいる。情報を共有しながら、本人の生活を共に支援していく関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が面会に来られた時は、昔話に花をさかせるよう、できるだけゆっくりと過ごせるよう配慮している。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの方々、風景、場所など大切にしている。誕生日企画として、昔慣れ親しんだ場所へ、一緒に出かけた事もある。 (外部評価) 事業所では、利用者の馴染みの関係の支援方法が大きく分けて二つある。一つは入居前の在宅生活で利用者が大切にしていた関係継続であり、もう一つは、入居後の事業所を中心とした生活での新しい馴染みの関係継続である。特にご近所の方々との関係を深める支援に力を注いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) A棟、B棟、自由にいつでも行き来きできるようにしてあるので、利用者同士行き来きして関われるようになっている。 利用者同士が関り合い支え合えるようにその関係を職員が見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院した場合、必ず見舞いに行き、状態把握に努めている。又、入院後退居となった利用者にも見舞いに行き、関係を大切にしている。今後も関係を断ち切らないよう努めたい。家族からの相談等にも応じている。看取りをした利用者の家族へ初盆の花を贈ったり、毎年鈴虫を頂くなどの交流が現在もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日のコミュニケーションをとる中で利用者の思いや希望を把握し、その人らしい暮らしができるように努めている。又、困難な場合は家族の意見を参考にしていて。センター方式のシート活用により、職員全員で希望・状態他の把握に努めながら、良い方向へと検討を重ねている。 (外部評価) センター方式のシートに担当職員が利用者の思いや生活歴を記録して、意向の把握に努めている。定期的に書き足しを行い、書き足すごとにペンの色を変えて利用者の状況変化がわかりやすい。自己表現が難しくなった利用者にも、その人らしい生活ができるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のシートの活用により、本人や家族に聞きながら把握に努めている。 新しい情報があれば、その都度書き入れ、情報活用している。これまでの暮らしを把握すると共に、プライバシーにも配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の病歴や本人の心身状態を把握し、本人の望む一日の過ごし方に近づけるよう支援している。洗濯物たたみ、おやつ作りの手伝いなど日頃の生活の中で残存能力の発見に努め、その力を発揮できる場をもうけるようにしている。発見した情報を、その都度職員全員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 定期的にケアカンファレンスを開き、その利用者の望み、課題、介護方法、医療面に対しても、スタッフと看護師で話し合い、確認して介護計画を立てている。担当者は、毎月モニタリング表にチェックを入れながら見直しを行っている。家族にもケアプランを発送し同意を得るとともに、面会時に意見他聞き参考にしてている。</p> <p>(外部評価) ケアプランはチームで行うことを基本とし、利用者それぞれの担当職員が中心になり、管理者がそれを支援している。また、モニタリングも客観性を持たせるために、専用シートを利用している。家族にも分かりやすい説明をして意見をもらい、介護計画にも反映させている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個人別に日々の記録を毎日時間を追って記入し、個別カルテにまとめ、いつでもスタッフがわかるようにしている。ケアプランが実行できたか印をつけるようにし、それをもとに介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在、認知症対応型通所介護利用者様を一日3名まで受けている。本人や家族の問題点もケアマネと連携しニーズに対応している。家族が多忙である時、家族に代わっての受診付き添いをする事あり。2ヶ月に1回の散髪もされ本人の要望にも対応するよう、努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域運営推進会議時に、地域の方や民生委員・家族からの意見を参考にして地域とのつながりを大切にしている。年2回の消防訓練をして安全を保ち、伊予農業高校による園芸セラピーによる物作りの楽しみを味わっている。介護相談員2名来訪あり、相談にのってもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前のかかりつけ医との関係を大切にしている。入 居後も近藤医院、笠置記念病院・いよ整形外科・砥部 病院・滝口歯科の協力医療機関あり。本人、家族が希 望する病院があれば、その医療機関へ受診を行う。受 診の際には情報を提供し、スムーズに受診できる様支 援している。近藤医院の定期的な訪問診療あり。 (外部評価) 利用者それぞれの希望するかかりつけ医への受診を支 援している。受診が難しくなった利用者には、往診の ある事業所の協力医への引き継ぎをしている。看護職 員による医療的な見守りと関係機関との連携が堅固に あり、医療的なケアには安心感が高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 1日1回のバイタル測定と、現在かかっている病気に応じて 血中酸素測定、必要に応じて1日2回のバイタル測定を行う 方もあり、早い段階での異常発見に努めている。異常 が見られた時は、看護師に相談し、必要に応じて主治 医への連絡を行っている。スタッフ、看護師間で情報 共有ノートを作り、医療面・訪問看護面で情報を共有 している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、本人の状態を家族及び病院へ連絡する。 必ずスタッフも入院につき添い、医療機関に日常的な 情報を提供している。入院時も見舞いに行ったり、家 族・関係者から情報を得ている。退院時も医療機関か らの情報を提供してもらい、より良い介護支援を行っ ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期のあり方は、本人の病状・状態を家族に説明し ながら、家族の希望を確認しながら出来る事の確認を 行い、なるべく希望に添える様にしている。終末期に は、ドクター、ホームの看護職員等に連絡が24時間体 制で取れる様にしている。今年、家族の希望もあり、 看取りを行った。 (外部評価) 本年度、家族の希望で看取りを行っているが、家族が 事業所に寝泊りをするなど家族と協力しながら取り組 んでいる。重度化や終末期の取り組み方針などについ て、職員や医療機関など関係者と共有して利用者と家 族を支援している。	職員の看取りの経験を職員間で共有し次の看取りに活 かせるよう、それぞれの思いを話し合う機会を作るこ とが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや状態観察にて異常の早期発見に努めている。消防署で行われる救命講習を交代で受ける様にしている。ミーティングで看護師による応急手当や初期対応の指導あり。夜勤帯も電話による緊急連絡網にてスムーズな対応が出来ている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域運営推進会議で話し合いあり。災害時の避難先、避難方法を確認し協力依頼を行っている。避難訓練は年2回消防署員立会いのもと行い避難誘導・消火訓練等、職員全員が勉強している。近隣の方々の参加も増え、誘導等協力して下さっている。非常用持ち出し袋を備え、飲食物は消費期限の確認を行っている。 (外部評価) キャリアのある事業所であり、避難訓練も回数を重ねている。災害対策に問題がないか第三者の目を入れてチェックをしている。避難訓練後に消防団員が利用者とふれあう時間をとっており、利用者の状態を理解してもらおう良い機会となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症の進んでいる利用者様にも、否定せず理解している事を示しながら対応している。接遇に関して気になる時には、その都度管理者からの教育の他にも同僚からの注意あり。訪室時のノックをはじめ着替え・トイレ・入浴時の対応には、特にプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に配慮している。個人的な話をする時は本人の居室で行っている。 (外部評価) 利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しながら、職員はそれぞれの持ち味を活かして利用者への声かけや対応をしている。職員には地元独特のイントネーションがあり、利用者の安心感を高めている。全ての職員の言葉の響きには優しさと丁寧さがあり、利用者を尊重していることが分かる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中からもだけでなく、本人のちょっとした表情にも気を配りながら何を思い何を希望しているのかを把握するよう心掛けている。集団の中では自分の気持ちを表現出来ない方や遠慮がちの方には1対1で話す場を作り希望を聞くようにしている。物事を行う時等、選択肢ある場合、自己決定が出来るように働きかけ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎朝の健康体操やレクの参加等無理にはせず本人に合わせた作業などをして頂いている。又、日によっては時間をずらしたりしてなるべく多くの利用者様が参加し楽しんで頂ける様に工夫している。希望を聞き、なるべく希望にそって生活できるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、入浴時には、洋服を自ら選んで頂くようにしている。選択が困難な方は、スタッフと一緒にいる。2ヶ月に1回の散髪・毛染め・髭剃りなど身だしなみに心掛けその人らしいおしゃれが出来るように支援している。特に外出の際には、希望を聞きながら時間をかけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮剥き・食器の準備・盛り付け・食後の食器洗い等を出来る方は普段からして頂いている。食材も利用者様の食べやすい大きさにカットしたり、献立を一部変更をしたりしている。盛り付けにも注意し食べやすいように工夫している。利用者様と職員と一緒に食事、片付けをしている。 (外部評価) 食材は法人でまとめて手配している。職員は「利用者の笑顔を見たいので、一手間掛けています」と話し、賑やかな食卓になっている。食事が終わると当たり前のようにシンクの前で洗い物をしている利用者からは、一緒に生活しているという思いが見てとれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 歯の悪い方にはお粥やキザミ食にし、少しでも摂取して頂けるようにしている。どうしても摂取量の少ない方には定期的にエンシュアや野菜ジュースを飲んで頂いている。飲み込みの悪い方には、トロミを利用し水分補給に気をつけている。病気の関係から細かく水分量をチェックして、量を制限している利用者もあり。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、自分で行える方には、セッティング・声掛けを行っている。自分で行えない方にも声掛けにより口を開けてもらうなど少しでも出来る事をしてもらっている。常に口腔内の清潔を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄の状態観察を行い、早めの声掛け・トイレ誘導にて、なるべくトイレで気持ちよく排泄して頂ける様に心掛けている。夜間も車椅子を使用されている方には、ポータブルトイレを使用して頂き、なるべくオムツを使用しないようにしている。尿意のない利用者でも、定期的にトイレ誘導を行っている。</p> <p>(外部評価) 昼間はできるだけトイレでの排泄を支援しており、利用者毎の排泄パターンから、声かけや誘導が行われている。夜間は睡眠を優先する場合や移動の安全性からポータブルトイレの使用など、利用者の状態と生活の質を考慮した支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎日、排便チェックを行っている。排便の無い日数に応じて個人別の便秘薬の服用マニュアルあり。普段から牛乳を飲んで頂いたり、バナナや繊維質の多い食品を食べて頂く様にしている。又、腹部マッサージ・軽い運動・歩行練習などをして頂くようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 1週間に2回のペースで入浴していただいている。時間帯や順番は利用者様の希望に合わせるようにしている。気の合う利用者様同士で入浴をしたり、好みの入浴剤を選んで頂く等、楽しみながら入浴が出来るようにしている。入浴拒否の方には、タイミングを見計らいながら声掛けの工夫をし、必要に応じて清拭・足浴・洗髪を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者から湯船にゆっくり入りたい希望があれば、職員2名体制で介助するなど、個々に応じた入浴支援を行っている。また、職員と利用者のコミュニケーションの場であるとして、ゆっくりとした時間が取れるようシフトに配慮している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 就寝時間は利用者様本意としており、個人の好みの照明や温度調節には気を配っている。訴えない利用者様の場合は顔色や様子を見て声掛けなどをして休んでいただく。昼間も様子を見てソファや居室にて休んでいただくように心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時には、毎回カンファレンスの時間を設け、個人の状態を詳しく報告している。薬の変更等があれば、申し送りや連絡ノートにて情報の共有をしている。個人の状態に合わせ、オブラートを使用したり、トロミで内服するなどの工夫をしている。また、病院で薬に関する勉強会が定期的に行われている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの能力に応じ、趣味の俳句作りや絵画が継続できるよう支援している。また、その作品が展示会等で発揮できるよう場の提供を行っている。日々の生活では、洗濯物たたみ・干し・料理の下ごしらえ・ゴミ集め・配膳など得意な分野の役割を持っている。歌・塗り絵・写字・制作物などを得意としている人も多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じとれる様に花見・散歩・ドライブなどに出掛け地域の方々との交流を楽しんでいる。誕生日企画では、本人の希望を取り入れながら、遠出する事がある。地域で開催される「ふれあい作品展」「敬老会」「生き生きサロン」「運動会」に参加している。2週間に1度は買い物の日を設け、商店街やスーパーに出かけている。 (外部評価) 事業所の玄関からは園芸セラピーの畑が見渡せ、広いアプローチで日常的に気軽に外気浴ができる。定期的な外出も希望を聞きながら計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額のお金を持って頂く事により、本人の安心感と責任を持って管理することが出来る為、希望者は財布を持っている。2週間に1度の買い物の日には近所のスーパーなどスタッフ同行で行き、お金が使える楽しみを大切にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や季節の絵手紙などを楽しみながら書いて頂き大切な人達とのやり取りが続けられるよう、支援している。電話したい時は、各部屋に電話機があり、いつでも電話が掛けられる様になっている。依頼されて、電話番号押しを介助する事がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節により、窓の開放や空調管理に気をつけている。冬場など、乾燥しがちな時期は、加湿機の使用、濡れタオルを使用し、湿度を適度に保つ様になっている。利用者様と一緒に季節を感じてもらうためにカレンダー作りをしている。花壇や畑には、季節の花や野菜を植えるようにしている。玄関には常に季節の花を飾っている。</p> <p>(外部評価) 共用空間の天窓からは優しい陽が射して明るい雰囲気がある。リビングにはゆったりとした大きなテーブルがあるが、車いす使用者の移動に邪魔にはならない広さがある。共用空間からはトイレの出入りが直接見えない配慮があり、プライバシーが守られ居心地良く過ごせる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関前、中庭にベンチを設置している。ホールにはソファや居間があり、気の合った利用者様同士でゆったりと会話を楽しめる雰囲気作りをしている。一人でゆっくりしたい人の為に、一人用椅子を数箇所設置している。トイレや風呂場はプライドに配慮しノックを必ず行っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に本人様の使いなれた馴染みの家具や小物等を持ち込んで頂き環境を整えている。又、食事の際は箸、茶碗、湯飲み等、使い慣れた物を使ってもらっている。それぞれが、家族の写真や作った作品を飾るなどして居心地よく生活している。</p> <p>(外部評価) ベッドやダンス、ロッカーなどの備品が用意され、利用者は思い思いの物を持ち込んで、部屋ごとに個性があり落ち着いて過ごすことができる。また、各部屋に利用者が使える電話があり、家族等と繋がる手段として活用されている。気軽に喋れることで本人の居心地をより良いものになっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 場所や使用方法が理解できない方の為に、トイレの場所を記した張り紙や水流しの方法、テレビリモコンや洗濯機の使い方、居室のダンス内の衣類分け、食事時間の説明等を分かりやすく表示している。その都度、繰り返し説明し、安心して生活が出来るよう支援している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000190
法人名	(有)ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットぐんちゅう
所在地	伊予市米湊字西窪1131-3
自己評価作成日	平成24年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①職員は毎日笑顔で利用者様に接しており、コミュニケーションを大切にしながら、接遇に気をつけ生き生きと働いている。 ②かかりつけ医 近藤医院への報告・相談を密にし、訪問診療を充実させて利用者様の医療面のレベルアップに努めている。 ③近隣の方々・伊予農業高校生の訪問・交流が多く、写真の展示・傾聴ボランティア・園芸セラピーなどに入っただき、利用者様との交流を深め、心を豊かにしていただいている。 ④数年前より家族会を発足させ、年に数回家族会を開催し、利用者様とのふれ合い、家族間・職員との交流にも力を入れている。 ⑤今年度より、ホームヘルパー2級の実習受け入れ予定であり、更なる質の向上を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から12年目を迎える事業所であり、「この仕事が好きなんです」と管理者も職員も異口同音に笑顔で言う。利用者が楽しく暮らしている事業所である。また、職員の入れ替わりは大変少ない。管理者は利用者の生活の質を高めるためには、家族等の協力が不可欠であると考え、利用者や家族の絆を保つよう支援に心を砕いている。利用者の生活を輝きのあるものにするという福祉職としてのプライドが感じられる。職員は現状を良しとせず絶えず前向きに検討し、より良いケアが提供できるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム ユニットぐんちゅう

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)

氏名 武智 美知子

評価完了日 平成24年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を第一の理念にあげ、コミュニケーションをとりながら、ゆったりと生活していただけるよう努めている。毎朝職員全員で、理念と月目標を唱和している。「より豊かな その人らしい生活が送れるようにチームで支援します」と去年スタッフ全員で考え、話し合い、新しいサブ理念も掲げて目標にしている。時々、介護方法を見直している。</p> <p>(外部評価) 昨年事業所の運営が10年目を迎えたことを契機に理念の見直しを行っている。初心に帰り利用者のケアに力を注ぐようにしている。また認知症のケアでは、利用者それぞれの生活を大切にすることが基本であることから、理念に「その人らしさ」を取り入れて、日々のケア現場で実践できるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日頃、地区の回覧版もまわってきている。近所への散歩・又地域の行事に参加し、顔見知りとなることで、地域の一員として交流できるように努めている。今年も地域の「いきいきサロン」「敬老会」伊予市の住吉祭りの踊りにもスタッフほぼ全員にて参加した。近くの集会所で開かれる研修会や、手作り作品展にも、毎回参加しながら、地区の方々との交流を深めている。近所の方の来訪あり。</p> <p>(外部評価) 近隣者や地域のボランティアの出入りが多く、日常的に地域との交流がある。地元の高校生が園芸セラピーで訪れ、利用者笑顔でお茶しながら楽しく話す姿から、気軽に近所付き合いができているのが分かる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域のボランティア・行事参加の誘いあれば、スタッフ参加し、認知症に関する質問等に答えている。又地域運営推進会議でも、地域の様子を聞き、認知症についての質問等に答え、できる範囲の事を行っている。利用者家族や面会に来られた地域の方々の認知症に関する質問にも、職員の理解している範囲で答えるとともに、認知症の方に対する理解を呼びかけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、写真を見ていただきながら2ヶ月間の行事報告を行った後、議題に関して話し合いを行い、参加している市役所職員・区長・民生委員他より意見をいただき、サービスに生かすようにしている。特に避難訓練時には、地区の方々の意見を参考にしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は進め方に工夫を凝らし、会議に合わせて行事やその準備会を行い、委員からは闊達な意見が出ており、利用者へのサービス向上の意欲が感じられる。また、地域の方を対象にした福祉に関するテーマで勉強会等も開催するなど地域貢献の役割も担い、双方向の関係性が構築できている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎月グループホームの入居状況・予約者状況をメールいる。市役所長寿介護課からも文書・メールにていろいろな情報をいただいている。わからない事があれば、市役所他に問い合わせ、確認をしている。訪問調査時には、正しい情報を詳しく調査員に伝えている。介護相談員の来訪も毎月あり、利用者は相談する事ができる。</p> <p>(外部評価) 地域の福祉を牽引している事業所で、ケアサービスや避難訓練など他の事業所の相談役を担っている。これらの相談は行政経由で受けており、市と連携し地域の福祉を推進している。行政との信頼関係や協力体制が構築されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的に見直しを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、身体拘束は全く行っていない。玄関は可能な限り、施錠をせず開放的な雰囲気になっている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束には物理的なことだけでなく精神的な拘束もあることを、管理者は事ある毎に職員に話をしている。職員は声かけにもやさしさだけでなく、利用者の行動を妨げないようとの配慮がある。利用者がゆったりとした自由な暮らしができるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞、ニュース等で虐待の事件があれば、その都度、原因や防止策について話し合いをしている。研修会や講義に参加した者は、記録を作成し、他の職員にも知識を広げている。入浴や身体介助時には、利用者の身体観察に努め、気になる点があれば報告し改善に向けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加して知識を広めている。参加者は記録を作成し、他の職員にも知識を広め、情報を共有している。遠縁の親族がいるが、疎遠でお互いに関わりたくない利用者一名あり。弁護士を立て、今後のことを相談している。本人の思いを一番に考え、トラブルがないよう進めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書に沿ってわかりやすく説明し、必ず疑問点がないか尋ねている。利用者と家族に納得、同意の上、書面にて契約手続きをしている。又、利用中の料金改正、契約内容の変更があれば、その都度、その理由を説明し、理解、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的で開催される地域運営推進会議、家族会には、なるべく違ったメンバーになるよう配慮し、より多くの意見を頂いている。事業者が開催する行事には、家族や近隣者にも参加して頂き、意見や要望を聞いている。玄関には意見箱の設置あり。出された意見は前向きに運営にとり入れている。 (外部評価) 管理者が事業所の運営に関して心を砕いている事の一つに「利用者と家族の関係を密にする」ことがある。また関係修復という視点もある。家族からの率直な意見や要望を聞き取るため、心を込めることを大切にしながら傾聴を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 全職員に対して個別に面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見は、代表者会議にて、伝え改善すべき事は改善している。 毎日朝夕行われる申送り時は、職員全員が自由に意見を発言できる場となっている。</p> <p>(外部評価) 管理者は介護シフトに入っており、介護現場で直接職員と話し合う時間を大切にしている。また、人を育てるという視点から、若い職員の意見に積極的に耳を傾けている。職員からは「利用者のために考えた意見は反映されている」という声を聞くことができ、職員と一緒に事業所を運営していることが理解できる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務年数、能力に応じ昇給あり。年二回の賞与、退職金制度あり。代表者は、資格所得を勧め、所得者には手当ての支給がある。代表者は管理者を通し、職員個々の勤務態度、能力、努力を把握し、昇格、昇給につなげている。資格の有無にかかわらず、昇格できる体制をとっている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修会の案内があり、参加を積極的に勧めている。参加者の研修報告書には、必ずコメントを入れ、職員の能力、知識を把握し、意欲の向上につなげている。協力医療機関と連携をとり、社内研修が多く行われた。研修会には、日勤扱いで参加することが多い。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) GH協議会、CM協議会に加入し、研修会や行事には毎回参加し、同業者との交流を図っている。他GHとの相互研修に2名参加し、自施設のサービスの質の向上の為、参考になった。社内3事業所間では、地域運営推進会議他相互訪問する機会が多く、意見交換、情報収集に力を入れている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前アセスメントで、本人、家族の思いや希望を親身になり聞き取るよう努めている。環境の変化で戸惑ったり不安にならないよう、なるべく今までと同じ生活ができるよう環境や生活リズムを整えるよう支援している。家族とも信頼関係を深め、協力を頂き、共に本人を支えていく姿勢をとっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時、利用者、家族が困っていること、求めていること、不安な事など、悩みをゆっくり聞き、不安なく利用していただけるよう、時間をかけ、コミュニケーションをとりながら受けとめるようにしている。又電話での相談にもいつでも応じ、信頼関係を築くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の希望に耳を傾け、さまざまな選択肢を考えた上で、分かりやすく説明し、利用者・家族にとって一番良い方法を見極めている。一定期間後に必ず見直しを行い、確認をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔の話、しきたり等の話を聞いたり、人生の先輩として意見を参考にしたり、一緒に喜び、悲しみも分かち合える関係づくりに努めている。一対一の時間・かかわりを大切にしながら、本人を深く理解しようと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 近況報告など、情報を共有し、良いことは必ず伝え、安心していただけるようにしている。又、行事の時には案内し、本人と一緒に過ごす時間を楽しんでいる。情報を共有しながら、本人の生活を共に支援していく関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が面会に来られた時は、昔話に花をさかせるられるよう、できるだけゆっくりと過ごせるよう配慮している。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの方々、風景、場所など大切にしている。誕生日企画として、昔慣れ親しんだ場所へ、一緒に出かけた事もある。 (外部評価) 事業所では、利用者の馴染みの関係の支援方法が大きく分けて二つある。一つは入居前の在宅生活で利用者が大切にしていた関係継続であり、もう一つは、入居後の事業所を中心とした生活での新しい馴染みの関係継続である。特にご近所の方々との関係を深める支援に力を注いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) A棟、B棟、自由にいつでも行き来きできるようにしてあるので、利用者同士行き来きして関われるようになっている。 利用者同士が関り合い支え合えるようにその関係を職員が見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院した場合、必ず見舞いに行き、状態把握に努めている。又、入院後退居となった利用者にも見舞いに行き、関係を大切にしている。今後も関係を断ち切らないよう努めたい。家族からの相談等にも応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日のコミュニケーションをとる中で利用者の思いや希望を把握し、その人らしい暮らしができるように努めている。又、困難な場合は家族の意見を参考にしていて。センター方式のシート活用により、職員全員で希望・状態他の把握に努めながら、良い方向へと検討を重ねている。 (外部評価) センター方式のシートに担当職員が利用者の思いや生活歴を記録して、意向の把握に努めている。定期的に書き足しを行い、書き足すごとにペンの色を変えて利用者の状況変化がわかりやすい。自己表現が難しくなった利用者にも、その人らしい生活ができるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のシートの活用により、本人や家族に聞きながら把握に努めている。 新しい情報があれば、その都度書き入れ、情報活用している。これまでの暮らしの把握すると共に、プライバシーにも配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の病歴や本人の心身状態を把握し、本人の望む一日の過ごし方に近づけるよう支援している。洗濯物たたみ、おやつ作りの手伝いなど日頃の生活の中で残存能力の発見に努め、その力を発揮できる場をもうけるようにしている。発見した情報を、その都度職員全員で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 毎月一回のケアカンファレンスを開き、その利用者の望み、課題、介護方法、医療面に対しても、スタッフと看護師で話し合い、確認して介護計画を立てている。担当者は、毎月モニタリング表にチェックを入れながら見直しを行っている。家族にもケアプランを発送し同意を得るとともに、面会時に意見他聞き参考に行っている。</p> <p>(外部評価) ケアプランはチームで行うことを基本とし、利用者それぞれの担当職員が中心になり、管理者がそれを支援している。また、モニタリングも客観性を持たせるために、専用シートを利用している。家族にも分かりやすい説明をして意見をもらい、介護計画にも反映させている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個人別に日々の記録を毎日時間を追って記入し、個別カルテにまとめ、いつでもスタッフがわかるようにしている。ケアプランが実行できたか印をつけるようにし、それをもとに介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在、認知症対応型通所介護利用者を一日3名まで受けている。本人や家族の問題点もケアマネと連携しニーズに対応している。家族が多忙である時、家族に代わっての受診付き添いをする事あり。2ヶ月に1回の散髪もされ本人の要望にも対応するよう、努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域運営推進会議時に、地域の方・民生委員からの意見も参考にして地域とのつながりを大切にしている。年2回の消防訓練をして安全を保ち、伊予農業高校による園芸セラピーによるものづくりの楽しみを味わっている。介護相談員2名来訪あり、相談にのってもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>入居前のかかりつけ医との関係を大切にしている。入居後も近藤医院、笠置記念病院・いよ整形外科・砥部病院・滝口歯科の協力医療機関あり。本人、家族が希望する病院があれば、そこへの受診を行う。受診の際には情報を提供を提供し、スムーズに受診できる様支援している。近藤医院の定期的な訪問診療あり。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者それぞれの希望するかかりつけ医への受診を支援している。受診が難しくなった利用者には、往診のある事業所の協力医への引き継ぎをしている。看護職員による医療的な見守りと関係機関との連携が堅固にあり、医療的なケアには安心感が高い。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>1日1回のバイタル測定と、現在かかっている病気に応じて血中酸素測定、1日2回のバイタル測定を行っており、早い段階での異常発見に努めている。異常が見られた時は、看護師に相談し、必要に応じて主治医への連絡を行っている。スタッフ、看護師間で情報共有ノートを作り、医療面・訪問看護面で情報を共有している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>終末期のあり方は、本人の病状・状態を家族に説明しながら、本人・家族の希望を確認し出来ることの支援をしている。なるべく希望に添えるように努力している。終末期には、ドクター・ホームの看護職員が24時間連絡が取れる体制をとっている。独居の利用者一名に対して、親身になり今後のことを話し合っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>本年度、家族の希望で看取りを行っているが、家族が事業所に寝泊りをするなど家族と協力しながら取り組んでいる。重度化や終末期の取り組み方針などについて、職員や医療機関など関係者と共有して利用者と家族を支援している。</p>	職員の看取りの経験を職員間で共有し次の看取りに活かせるよう、それぞれの思いを話し合う機会を作ることが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや状態観察にて異常の早期発見に努めている。消防署で行われる救命講習を交代で受ける様にしている。ミーティングで看護師による応急手当や初期対応の指導あり。夜勤帯も電話による緊急連絡網にてスムーズな対応が出来ている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域運営推進会議で話し合いあり。災害時の避難先、避難方法を確認し協力依頼を行っている。避難訓練は年2回消防署員立会いのもと行い避難誘導・消火訓練等、職員全員が勉強している。近隣の方々の参加も増え、誘導等協力して下さっている。非常用持ち出し袋を備え食料は、消費期限の確認を行っている。 (外部評価) キャリアのある事業所であり、避難訓練も回数を重ねている。災害対策に問題がないか第三者の目を入れてチェックをしている。避難訓練後に消防団員が利用者とふれあう時間をとっており、利用者の状態を理解してもらおう良い機会となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症の進んでいる利用者にも、否定せず理解している事を示しながら対応している。接遇に関して気になる時には、その都度管理者からの教育の他にも同僚からの注意あり。訪室時のノックを始め、着替え・トイレ・入浴時の対応には、特にプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に配慮している。個人的な話をする時は本人の居室で行っている。 (外部評価) 利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しながら、職員はそれぞれの持ち味を活かして利用者への声かけや対応をしている。職員には地元独特のイントネーションがあり、利用者の安心感を高めている。全ての職員の言葉の響きには優しさと丁寧さがあり、利用者を尊重していることが分かる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中からもだけでなく、本人のちょっとした表情にも気を配りながら何を思い何を希望しているのかを把握するよう心掛けている。集団の中では自分の気持ちを表現出来ない方や遠慮がちの方には1対1で話す場を作り希望を聞くようにしている。物事を行う時等、選択肢がある場合、自己決定が出来るように働きかけ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎朝の健康体操やレクの参加等無理にはせず本人に合わせた作業などをして頂いている。又、日によっては時間をずらしたりしてなるべく多くの利用者が参加し楽しんで頂ける様に工夫している。希望を聞き、なるべく希望にそって生活できるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、入浴時には、洋服を自ら選んで頂くようにしている。選択が困難な方は、スタッフと一緒にいる。2ヶ月に1回の散髪・毛染め・髭剃りなど身だしなみに心掛けその人らしいおしゃれが出来るように支援している。特に外出の際には、希望を聞きながら時間をかけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮剥き・食器の準備・盛り付け・食後の食器洗い等を出来る方は普段からして頂いている。食材も利用者様の食べやすい大きさにカットしたり、献立を一部変更をしたりしている。盛り付けにも注意し食べやすいように工夫している。利用者と職員と一緒に食事、片付けをしている。 (外部評価) 食材は法人でまとめて手配している。職員は「利用者の笑顔を見たいので、一手間掛けています」と話し、賑やかな食卓になっている。食事が終わると当たり前のようにシンクの前で洗い物をしている利用者からは、一緒に生活しているという思いが見てとれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 歯の悪い方にはお粥やキザミ食にし、少しでも摂取して頂けるようにしている。どうしても摂取量の少ない方には定期的にエンシュアや野菜ジュースを飲んで頂いている。飲み込みの悪い方には、トロミを利用し水分補給に気をつけている。病気の関係から細かく水分量をチェックして、量を制限している利用者もあり。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、自分で行える方には、セッティング・声掛けを行っている。自分で行えない方にも声掛けにより口を開けてもらうなど少しでも出来る事をしてもらっている。常に口腔内の清潔を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) トイレ誘導、声掛けを行いトイレで気持ちよく排泄して頂ける様に心掛けている。夜間も車椅子を使用されている方などは、ポータブルトイレを使用して頂きなるべくオムツを使用しないようにしている。尿意のない利用者でも、定期的にトイレ誘導を行っている。</p> <p>(外部評価) 昼間はできるだけトイレでの排泄を支援しており、利用者毎の排泄パターンから、声かけや誘導が行われている。夜間は睡眠を優先する場合や移動の安全性からポータブルトイレの使用など、利用者の状態と生活の質を考慮した支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎日、排便チェックを行っている。排便の無い日数に応じて個人別の便秘薬の服用マニュアルあり。普段から牛乳を飲んで頂いたり、バナナや繊維質の多い食品を食べて頂く様にしている。又、軽い運動や歩行練習などをして頂くようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 1週間に2回のペースで入浴していただいている。時間帯や順番は利用者様の希望に合わせるようにしている。気の合う利用者様同士で入浴をしたり、好みの入浴剤を選んで頂く等、楽しみながら入浴が出来るようにしている。入浴拒否の方には、タイミングを見計らいながら声掛けの工夫をし、必要に応じて清拭・足浴・洗髪を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者から湯船にゆっくり入りたい希望があれば、職員2名体制で介助するなど、個々に応じた入浴支援を行っている。また、職員と利用者のコミュニケーションの場であるとして、ゆっくりとした時間が取れるようシフトに配慮している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 就寝時間は利用者様本意としており、個人の好みの照明や温度調節には気を配っている。訴えのない利用者様の場合は顔色や様子を見て声掛けなどをして休んでいただく。昼間も様子を見てソファや居室にて休んでいただくように心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時には、毎回カンファレンスの時間を設け、個人の状態を詳しく報告している。薬の変更等があれば、申し送りや連絡ノートにて情報の共有をしている。個人の状態に合わせ、オブラートを使用したり、トロミで内服するなどの工夫をしている。また、病院での薬に関する勉強会が定期的に行われている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの能力に応じ、趣味の俳句作りや絵画が継続できるよう支援している。また、その作品が展示会等で発揮できるよう場の提供を行っている。日々の生活では、洗濯物たたみ・干し・料理の下ごしらえ・ゴミ集め・配膳など得意な分野の役割を持っている。歌・塗り絵・写字・制作物などを得意としている人も多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じとれる様に花見・散歩・ドライブなどに出掛け地域の方々との交流を楽しんでいる。誕生日企画では、本人の希望を取り入れながら、遠出する事がある。地域で開催される「ふれあい作品展」「敬老会」「生き生きサロン」「運動会」に参加している。二週間に1度は買い物の日を設け、商店街やスーパーに出かけている。 (外部評価) 事業所の玄関からは園芸セラピーの畑が見渡せ、広いアプローチで日常的に気軽に外気浴ができる。定期的な外出も希望を聞きながら計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額のお金を持って頂く事により、本人様の安心感と責任を持って管理する事。2週間に一度の買い物の日には近所のスーパーなどスタッフ同行で行き、お金が使える楽しみを大切にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や季節の絵手紙などを楽しみながら書いて頂き大切な人達とのやり取りが続けられるよう、支援している。電話したい時は、各部屋に電話機があり、いつでも電話が掛けられる様になっている。依頼されて、電話番号押しを介助する事がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節により、窓の開放や空調管理に気をつけている。冬場など、乾燥しがちな時期は、加湿機の使用、濡れタオルを使用し、湿度を適度に保つ様になっている。利用者様と一緒に季節を感じてもらうためにカレンダー作りをしている。花壇や畑には、季節の花や野菜を植えるようにしている。玄関には常に季節の花を飾っている。</p> <p>(外部評価) 共用空間の天窓からは優しい陽が射して明るい雰囲気がある。リビングにはゆったりとした大きなテーブルがあるが、車いす使用者の移動に邪魔にはならない広さがある。共用空間からはトイレの出入りが直接見えない配慮があり、プライバシーが守られ居心地良く過ごせる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関前、中庭にベンチを設置している。ホールにはソファや居間があり、気の合った利用者様同士でゆったりと会話を楽しめる雰囲気作りをしている。一人でゆっくりしたい人の為に一人用椅子を数箇所、設置している。トイレや風呂場はプライドに配慮しノックを必ず行っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に本人様の使いなれた馴染みの家具や小物等を持ち込んで頂き環境を整えている。又、食事の際は箸、茶碗、湯飲み等、使い慣れた物を使ってもらっている。それぞれが、家族の写真や作った作品を飾るなどして居心地よく生活している。</p> <p>(外部評価) ベッドやダンス、ロッカーなどの備品が用意され、利用者は思い思いの物を持ち込んで、部屋ごとに個性があり落ち着いて過ごすことができる。また、各部屋に利用者が使える電話があり、家族等と繋がる手段として活用されている。気軽に喋れることで本人の居心地をより良いものになっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 場所や使用方法が理解できない方の為に、トイレの場所を記した張り紙や水流しの方法、テレビリモコンや洗濯機の使い方、居室のダンス内の衣類分け、食事時間の説明等を分かりやすく表示している。その都度、繰り返し説明し、安心して生活が出来るよう支援している。</p>	